

2012 年度前期授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—経済学部—

経済学部長 杉 本 義 行

今回、経済学部開設科目（法学関連科目を除く）で前期開講科目のうち、アンケート実施が義務付けられた科目は、実施が任意であるゼミ・演習、受講者 10 名未満の科目、通年科目を除いた 26 科目でした。そのうち 26 科目についてアンケートが実施され、実施率は 100%でした。また、実施が任意の科目のうちゼミ・演習、受講者 10 名未満については 13 科目のうち 11 科目が実施（実施率 84.6%）され、つごう 37 科目について、延べ 1,746 名の経済学部生のみなさんからご協力をいただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。また、アンケートの実施に対して、貴重な授業時間を割いてご協力頂いた経済学部専任・非常勤の先生方にも深く感謝いたします。

すでに周知のように今回の授業評価アンケートから、学生のみなさんも個別科目の集計結果について Campus Square for Web から自由に閲覧することが可能となりました。履修登録の際に参考材料として是非、活用していただきたいと思えます。

さて、前回同様、このコメントを作成するにあたり、学部全体の集計結果はもちろんのこと、アンケートが実施された 37 科目すべてについて科目ごとの個別集計結果ならびに記述による「授業に対するコメント」に目を通したことを、まずご報告いたします。

対象となった前期科目の「総合評価」の学部平均は、5 段階評価で 3.98（2011 年度前期 4.04）でありました。個別科目でみると、4.5 以上の高い評価の科目も散見され、概ね良好であったと判断いたしました。

設問ごとの結果と総合評価との相関係数をみると、これまでと同様に、「この分野の関心と学力が得られた」という項目が 0.78 と相関係数が一番高くなっており、ついで「授業への教員の熱意を感じた」（0.70）、「教員の話し方は明瞭であった」（0.66）、「シラバスと内容が一致していた」（0.64）、「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた」（0.63）、「教員は授業時間を有効に利用した」（0.63）、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」（0.61）が重要なファクターであることが示唆されています。

私なりの理解では、＜授業の内容の面白さ＞とそれをくどれだけ理解できるか＞が学生のみなさんの評価ポイントであるということが出来ます。したがって、理解を妨げる様々な要因、すなわち、板書の見にくさ、私語の多さ、話し方の不明瞭さ、授業の進行スピードなどが評価項目として重要視されています。各科目へのコメントにも、前回同様に、「私語に対して注意がされていない」「私語で集中できない」などの指摘がいくつかあり、私語は学生のみなさんの問題でもありますが、良好な学習環境の確保に教員がこまめに配慮する必要がありますと感じました。

毎回のことですが、指摘された点を真摯に受け止め、授業の一層の質向上につとめたいと考えます。